
かみさまといっしょ

銀丈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

かみさまといっしょ

【Nコード】

N1780Z

【作者名】

銀丈

【あらすじ】

祖母が危篤との報せに、両親と共に祖母の住む山奥の神社を訪ねた琢磨。

こんなところにさえいなければ、と「神」への怒りを抱く彼に、祖母は言った。

「神様をお願い」

琢磨でなければならぬのだと、言うだけ言って死んでしまう。

困惑する琢磨の前に、本当に神様が顕れた――。

お社へ

祖母が危篤。

急な報せを、源琢磨は走り出した車の中で聞いた。みなもとたくま

しかもその祖母が、床に伏せりながら琢磨を呼んでいるのだという。

放課のチャイムが鳴った直後の高校正門へ車で乗り付けて、出てきた男子生徒を車内へ引きずり込むなり走り出す——両親が一人息子にやらかしたとはいえどう考えても通報沙汰の手際も、事情を聞いてしまえば文句は出なかった。

とはいえ、もう少し現状を把握したかった琢磨は、アクセルペダルを踏みっぱなしの鬼気迫る父ではなく、同じ後部座席で隣に座っている蒼ざめた顔の母に訊いてみた。

「母さん、おばあちゃんそんなに悪いのか？」

「元々山奥に独りで暮らしていたし、体を壊しても、どうしてもってお社を離れなかったからね。お医者さんが診みに来たときにはもう、随分ひどい状態だったらしいわ」

琢磨の脳裏に、寂さびれきつた神社の境内で竹箒たけほうきを片手に笑う祖母の姿が浮かんだ。

琢磨の祖母は、琢磨が物心つく前にダム湖に沈んだ父の故郷、源村で巫女をしていた。

村がダム湖に沈んでなくなり、人が方々へ散っていく中、祖母は『神様が寂しがるから』と独りダム湖のほとりへ移設された神社に残ったのだ。

幼い頃、夏休み冬休みが来るたびそこへ帰省しては遊んでもらっていたが、しばらく会わないうちにこんな報せがあるとは思ひもしなかった。

「何が神だ」

行く手を見据えたまま、琢磨の父の押し殺した低い声が車内にこ

ぼれた。

「何度も一緒に暮らそうと誘ったのに……ありもしないもののために何やってるんだ……！」

そうだ、と琢磨も自分の心がささくれ立っていくのを感じた。

いい歳をした大の男として口に出す気こそないものの、使い捨てのカイロを捨てるときさえありがとうと感謝して、使わないのに手元に置かれる道具はかわいそうだ、と持ち物にスベアを用意しない、そんな優しすぎる祖母を、琢磨は大好きだった。

祖母の優しさを振り回し、ひとりぼっちで暮らさせ弱らせるような理屈は絶対に間違っている。

それが神だというのなら、神なんてもの、いてたまるものか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1780z/>

かみさまといっしょ

2011年12月6日15時55分発行